

工事ニ着手シタリ爾來順調ニ進捗シ四十三年度ヨリ大正元年度ノ間ハ掘鑿土砂一箇年三十萬坪以上五十萬坪ニ達スルノ成績ヲ舉ケ豫期以上ノ功程ヲ得タリ大正五年追加工事トシテ本川及支川彥山川犬鳴川中元寺川ノ上流部ヲ併セ改修スルコト、シ工事施行區域ヲ次ノ如クセリ

本川 筋 福岡縣嘉穂郡稻築村以下海ニ至ル

泉河内川筋 同縣同郡穂波村以下遠賀川合流ニ至ル

彥山川筋 同縣同郡大任村以下遠賀川合流ニ至ル

中元寺川筋 同縣同郡後藤寺町以下彥山川合流ニ至ル

犬鳴川筋 同縣鞍手郡宮田村以下遠賀川合流ニ至ル

大正六年度以降ハ一般物價勞銀炭價ノ暴騰採炭夫激增等ノ影響ヲ受ケ出役人夫馬匹ノ不足ヲ來タシ施行甚タ困難ヲ感シタリ加之同七年夏季事業ノ終局ニ當リ非常ノ出水ニ遭遇シ工事中ノ個所ニ於テ甚タシキ損害ヲ蒙リ之ヲ復舊費トシテ二萬九千餘圓ノ支出ヲ要スルニ至リ爲メニ工事ノ進捗ヲ阻礙セラレタルハ遺憾トスルトコロナリ

大正八年三月全部ノ工事竣功ヲ告タルニヨリ以下章ヲ分チ河狀並ニ改修計畫工事施行ノ狀況及工費竣功ノ結果等詳細記述スルトコロアラントス

第二章 河狀並ニ改修計畫

第一項 河狀及水害

遠賀川ハ源ヲ福岡縣嘉穂郡ノ東南隅宮野村ニ發シ西北ニ流レ鞍手遠賀ノ二郡ヲ貫キ遠賀郡蘆屋町ニ至リ響灘ニ朝ス流路十六里流域面積七十一方里ヲ占ム

支川ノ最大ナルモノヲ彥山川トナス源ヲ田川郡ノ東南隅彥山村ニ發シ西北ニ向ヒ郡ノ中央ヲ貫流シテ鞍手郡ニ入り下境

村ニ於テ遠賀川ニ合ス流路十二里流域面積十二方里餘之ヲ合流點以上ノ幹川ニ對比スルニ長短廣袤相等シク水利上ノ關係亦互ニ軒輊ナシ其他犬鳴川泉河内川中元寺川等ノ支流ハ順次其位置ニアリテ各本川ト共通ノ利害ヲ有シ何レモ重要ナル支川ナリトス

流域内ハ平野廣潤地味肥沃ニシテ沿岸ハ勿論凡ソ溪谷ノ通スルトコロ耕耘ノ普及セサルナク人家稠密ニシテ古來夙ニ發達セル地方タリ今其灌溉段別及水害段別ヲ舉クレハ則チ左ノ如シ

灌溉段別

一四、五二八・八二二三

水害段別

一六、三二〇・〇

筑豊炭トテ世ニ噴々タルモノハ皆本流域内ニ産出ス其採掘ノ濫觴ハ遠ク維新前ニ在リト雖トモ採掘ノ術未タ開ケス明治二十七年ニ至リ漸ク技術ノ進歩ニ伴ヒ爾來益々勃興シ三十八年本川改修調査當時ニハ出炭年額五百五十萬噸ニ達シ重要ナル炭坑ト見ルヘキモノ五十有一ヲ算シ坑區ノ小ナルモノハ殆ント枚舉ニ遑ナキニ至レリ而シテ鐵道網未タ完成セラレサリシ時代ニ於テ是等事業啓發ノ媒介ハ一ニ本川水運ノ賜ナリキ

本流域内産出ノ石炭ハ陸運及水運ニ依リ主ニ門司若松二港ニ送致スルモノニシテ流域内ハ鐵道四通八達日夜輸送ヲ掌リ堀川江川ノ二運河モ亦本川ト相通シテ川船ノ航路ニ當リ水陸ノ交通頻繁ヲ極ム蓋シ國連發展シ諸般ノ經營盛ナルニ際シ事業ノ最要素トシテ缺クヘカラサルモノハ鐵及石炭ニシテ九州北部ノ發展セル亦畢竟茲ニアリテ存ス

四圍ノ山脈ハ高峻ニシテ安山岩花崗岩及各成層岩類ヨリ成リ就中花崗岩ハ區域最モ廣ク各水源共ニ殆ント此層アラサルナク其多クハ腐敗シタル塊岩ニシテ風雨ノ爲メニ分離流出シ河底埋没ノ因ヲナス而シテ全流域ノ過半ハ砂岩礫母及粘土等ヨリ成リ此部亦不良ニシテ水分ヲ吸收スルコト少ナク其地表ニ露出スルヤ疎鬆ノ泥土トナリ著シキ浸蝕作用ヲ受ク且ツ山林亂伐ノ弊最モ盛ナリシヲ以テ地皮漸次剝落シ礫确不毛ノ原野ニ歸セントスルモノアリ或ハ滿目瘡坑ヲ成スモノアリ蓋シ地質ノ複雑ニシテ且ツ粗惡ナル他川稀ニ見ルトコロニシテ涸漲ノ患並存シ幾多ノ不便ト慘害トヲ招來シ寧歲ナキ

ハ寔ニ有故ナリ

本川ハ山間ノ急流ニ乏シク大部ハ平地ヲ貫流シ流速極メテ緩ニシテ河身屈曲多ク幅員廣狹不定ナルヲ以テ一朝霖雨ニ際シテハ沿岸一面ニ氾濫シ忽チ湖海ノ狀ヲナス就中明治二十四年七月ノ出水ハ稀有ノ洪水ニシテ慘害甚ダシク田畑ノ荒廢家屋ノ流失倒壞等其損害實ニ二百三十萬圓ノ巨額ニ上レリ殊ニ近年ニ至リテハ河床漸次埋没シ運輸灌漑ノ利害ニ減退セルノミナラス洪水ノ氾濫ハ愈々其度ヲ加ヘ來レリ

明治三十八年七月ノ洪水ハ二十四年ト匹敵スヘキ水位ニシテ一時ニ漲滿横溢シ破堤頻々殆ント完膚ナク其慘害豫想外ニ出ツ殊ニ前回ニ比スレハ鐵道ノ延長採炭ノ發達著シク隨テ是等ニ關スル損害甚大ニシテ全般ニ於ケル被害總額ハ實ニ六百二十萬圓ニ達ス今其被害ノ一斑ヲ記サン

一 炭坑ノ被害 這般ノ洪水ニ於テハ破堤ノ影響トシテ坑道ニ陥落ヲ來タシ或ハ坑内浸水ノ厄ニ罹リシモノ十六坑ニ及ヘリ是等ハ慄慄ノ極ナルモノニシテ復舊工事ニ多大ノ困難ト資金トヲ費サ、ル可カラサルノミナラス凡テノ設備ヲ破壞シ復舊ノ期間採炭不能ニ歸シタルノ損失亦尠々ナラサルナリ其他坑口坑外ノ浸水防禦從業者ノ避難等ニ幾多ノ經費ト時日トヲ費シタルカ如キ炭坑ノ多ク皆然リトスル所ナリ

尙ホ洪水ノ氾濫ニ因リ飲料水其他給水ノ停止道路橋梁ノ流失破壞交通ノ杜絶多數集團セル勞働者ノ窮狀等一々詳記ニ暇アラス左ニ被害損耗額ヲ列舉セハ

炭坑ノ損害額

三、一〇一、七二〇圓

内 譯

坑内排水及復舊費

五八九、五四六圓

坑外ノ損害高

六一、四一三圓

貯炭流失高

二二、七五九圓

論 說 報 告 遠賀川改修工事概要

坑内浸水又ハ増水ノ
爲メ探炭減少見積高

二、〇七四、一一一圓

臨時水害豫防費

九、四四五圓

運炭不能ニ因スル損害見積高

二二、七一七圓

水害豫防ノ爲メ事業休
止ニ因ル損失見積高

二一、七二九圓

西部古川鑛業所損害見積高

三〇〇、〇〇〇圓

二 鐵道ノ被害

流域内ノ鐵道ハ延長九〇哩弱ニシテ一方里一哩二五ニ當リ之ヲ其當時ノ全國平均〇哩一八及東京附近

(東京埼玉千葉神奈川)ノ平均〇哩五三八京阪地方(京都大阪奈良)ノ平均〇哩五〇二ニ比スルモ遙カニ大ニシテ地形

上汎濫區域ヲ通過セルヲ以テ線路ノ浸水破損運轉ノ休止等故障隨所ニ起リ折尾驛以南ハ殆ント全部ノ浸水ヲ見ルニ

至レリ其最モ激甚ナリシハ左ノ各驛附近ナリトス

植木 直方間 軌條上七尺五寸

直方驛構内 同 四尺七寸

勝野驛構内 同 五尺

小竹驛構内 同 四尺

中泉 金田間 同 七尺

被害損耗額左ノ如シ

鐵道ノ損害額 一八一、八一〇圓

内 譯

水害中收入減額 一六八、一一七圓

水害復舊費 一三、六九三圓

三 其他ノ損害

其他ノ損害額

二、九一九、二八八圓

内 譯

船運送ノ減額

七九、四六四圓

一般ノ被害額

二、八三九、八二四圓

合 計

六、二〇二、八一八圓

以上述べルカ如ク治水上至大ノ關係ヲ有シ他ノ河川ニ比シ利害共ニ一頭地ヲ抜クモノアリテ存ス

第二項 改修計畫

本川及最大支流ハ舊藩政時代ニ於テハ郡奉行ノ管理ニ屬シ國普請ト稱シ諸色代ハ藩ヨリ支辨シ現夫ハ關係ノ村々へ出役ヲ命シタリ維新後ハ郡村ノ支辨ニ屬セシヲ明治十二年度以降地方稅ヲ以テ補助シ同二十五年以降遠賀川本流及泉河内川彦山川ノ二支川ハ地方稅ヲ以テ支辨スルコト、ナレリ

明治三十八年ニ於ケル本川洪水ノ損害ハ前述ノ如ク未曾有ノ巨額ニ達シ其起因スルトコロハ一ニ河積ノ狹小ト堤防ノ不備不完全ニ歸スルヲ以テ水害ノ除却ヲ主眼トシ之カ改修ヲ計畫スルコト、ナレリ而シテ本改修ニヨリ救済シ得ヘキ重大ナルモノヲ列舉スレハ

第一 炭坑ノ浸水陷落

第二 炭坑業ノ設備ニ係ル諸機關及各建設物ノ洪水ニ因ル被害

第三 炭坑營業費ノ輕減

降雨期ニ炭坑排水費ヲ増加スルハ自然ノ傾向ニシテ救フヘカラサルモ洪水氾濫ニ基因スル排水費ヲ除クヲ得ヘ

第四 鐵道ノ杜絶

第五 堤防缺潰道路橋梁ノ破損流失

三十四年以降三箇年平均水害復舊費八萬三千五百八十六圓

第六 耕作地ノ氾濫荒廢

第七 家屋ノ浸水及流亡并ニ貨物ノ廢滅

第八 人畜ノ死傷

二十八年以降十箇年平均第六ヨリ第八ニ至ル水害損亡高三十一萬五千七百五圓

又其効果ノ大ナルモノハ

第一 毎年浸水ノ爲メ廢棄セル炭坑ノ再興即石炭採掘區域ノ増加

第二 水害ニ因リ採炭額ノ減少ヲ來ス憂ナク間斷ナク出炭スルヲ得從テ炭價ノ波瀾及工業界ノ恐慌ヲ減スヘシ

第三 鑛業法規定ノ周圍三十間以内云々ハ河身屈曲甚シク又ハ流路變遷ヲ生スル状態ニアリテハ勵行困難ナルモ改修

ニヨリ河川ノ區劃歴然タルヲ得ハ施業容易ナリ

要スルニ本川改修ヨリ生スル鑛業ノ利益ハ獨リ從來ノ災害ヲ防遏スルニ止マラス將來容易ニ天與ノ寶庫ヲ開發シテ國家ニ資スルコト蓋シ尠々ナラサルヘシ

以上ノ目的ヲ完全ナラシムル爲メ從テ支派川ニ及ホシ改修ヲ施サ、ルヘカラサル必要ノアルアリ而シテ本改修ニ於テハ高水防禦ニ必要ナル堤塘ノ増設擴築河積擴大ヲ以テ重要工事トシ低水ヲ治メ舟楫ノ便ヲ増進スル低水工事ニハ考慮ヲ費サス

改修區域ハ當初ノ計畫ト追加施行シタルモノトヲ併セ前掲ノ通りニシテ其延長左ノ如シ

本川

九里十五丁

彦山川 四里二丁
 泉河内川 二十五丁
 中元寺川 一里八丁
 犬鳴川 二里九丁
 計 十七里二十三丁
 洪水量ハ明治二十六年以降調査實測ノ結果ニヨリ傍ラ流域内ノ降雨量并ニ洪水氾濫區域等ヲ參酌シテ次ノ如ク推定セリ
 河川ノ幅員ハ是等ノ流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ル河積ヲ具備シ且ツ水位ハ三十八年ノ洪水位以上ニ昇騰セシメサル方針
 ヲ以テ定メタリ

三十八年直方量水標水位ハ 二一尺九五
 計畫洪水位ハ同標ニテ 二一尺〇〇

本 支 川 別	直方以下	洪水量(毎秒立方尺)	幅員(間)
本 川	直方ヨリ	一五〇、〇〇〇	二〇〇
同	泉河内川合流迄	七〇、〇〇〇	一二〇
同	泉河内川合流以上	四〇、〇〇〇	六〇—七〇
彦 山 川	直方合流ヨリ	八〇、〇〇〇	一二〇
同	中元寺川合流迄	五〇、〇〇〇	四〇—八〇
同	中元寺川合流以上	四〇、〇〇〇	七〇
泉 河 内 川		四〇、〇〇〇	
中 元 寺 川		三〇、〇〇〇	四〇—五〇
犬 鳴 川		三〇、〇〇〇	三五—五〇

本川一里十四丁以下ハ既定流量ヲ疏通セシムルニ不足ナルヲ以テ以下漸次幅員ヲ擴メテ二百五十間ニ至ラシム
堤防ノ増設擴築河積擴大ヲ以テ重要工事トナセル本計畫ニ於テハ新堤ノ高サハ洪水位上三尺馬踏幅三間(支川ハ一間半乃至二間)内
外法二割ヲ以テ最少限度トシ河身ノ屈曲ヲ矯正シ河積ノ不充分ナルトコロハ堤外地ヲ擴張掘鑿或ハ浚渫シ又支川合流ノ
方向宜シカラサルモノハ新ニ水路ヲ掘鑿シ合流點ヲ下流ニ移シ通流快流ヲ計リ以テ湛水逆流等ノ害ヲ除カントス泉河内
川及中元寺川合流點コレナリ又迂回屈曲甚シキヲ以テ新水路ヲ採用セルハ飯塚町ニ於ケル泉河内川及額田村口原ノ本川
幹流糸田村ニ於ケル中元寺川ニシテ直方町以下堤外地廣濶ニ過ル處ハ堤防ヲ進メテ其河積ニ適應スル迄之ヲ縮少シ下流
ノ狹窄部タル底井野村大字下大隈地先及蘆屋町大字山鹿河口ハ河身ノ掘鑿浚渫ヲ以テ主眼トシ幅員擴張ヲ以テ補フコト
トセリ

施工地ハ一般ニ炭坑業般盛ノタメ勞働賃金極メテ高價ナルヲ以テ器械力ニ據ルノ優レルヲ認メ左記ノ方法ヲ採用スルコ
ト、セリ

- 一 浚渫船使用工事
- 二 掘鑿機使用工事
- 三 人力掘鑿工事

機關車、馬力並ニ人力運搬

又築堤ニ要スル土砂ハ堤外地掘鑿土砂ヲ充當ス其掘鑿ノ土量築堤土積ニ比シ非常ニ過剩アル部分ハ特ニ堤防ノ馬踏ヲ五
間迄増大スルコト、セリ堤防ハ表裏芝付ヲ施シ平水堤脚ニ接觸スルトコロハ護岸工事ヲ施工ス

第三章 工事狀況

第一項 總 說

改修工事ハ大阪土木出張所ノ管理ニ屬シ明治三十九年四月施工準備ニ屬スル第一着ノ事業即チ計畫法線ニ據リ幅杭ノ設

定縦横断面ノ實測並ニ製圖收用土地ノ調査ヲ開始シ四十年十一月ヨリ見張所道具小屋倉庫等ノ建設及掘鑿機關車等ノ組立ヲナシ翌四十一年二月始メテ直方町地先洪水敷ノ掘鑿工事ヲ起工ス次テ同年四月直方工區ヲ設置シ漸次工事ノ進捗ニ從ヒ蘆屋飯塚金田ノ三工區ヲ設ケタリ四十四年四月新ニ下關土木出張所ヲ創設セラレタルニヨリ其管理ニ轉屬セラレ從來ノ四工區ヲ廢シ更ニ遠賀川改修工區事務所ヲ直方町ニ置キ工區主任ヲシテ全川ヲ統轄セシメ其下ニ飯塚直方蘆屋ノ三工場及直方機械工場ヲ配置セリ

土工機械ノ主要ナルモノハ往年淀川改良工事ニ使用シタルモノヲ轉用スルコト、シ尙ホ不足ノ分輕便軌條並ニ土砂運搬車及軌條等ノ幾分ヲ新ニ購入セシニ過キヌ左ニ其一覽表ヲ掲ク

主要ナル船舶機械一表表

品目	型質	重量	寸法	能力	員數	代價
掘鑿機	鋤簾式	四〇噸		二〇〇坪	三	六八、六〇五・九一一
機關車	たにくえんじん 六輪聯結	二〇噸			四	五九、一七三・〇六八
機關車	同 四輪聯結	二〇噸			一	五、三二七・五〇〇
機關車	同 六輪聯結	五噸			二	一一、〇〇〇・〇〇〇
渡漕船	鐵製 鋤簾式	22*×7.3*		二〇〇坪	一	四九、七〇三・一五五
長柄丸	鐵製	85R×16R 曳船 二七馬力		五九噸	一	一九、三九八・三三三
底開土運船	鐵製	100R×16R		一〇坪	四	三三、四七六・四九六
土運船	鐵製	100R×16R		一〇坪	一	四、三〇一・九七四
移搬器					三	四、九五六・九〇二

論説報告 遠賀川改修工事概要

品目 型質
せんとうのひゆーがる
ぼんぶ

重量 寸法 能力

員数

代價

一一一

六〇磅軌條

三〇磅軌條

一八磅軌條

一四磅軌條
九磅軌條

輕便軌條

各種分離線
くろつしんぐ

土砂運搬車

三 七三三・三四六

一八尺 三〇〇 二、八三六・二〇〇

一五尺 三六〇 三、五二七・一四〇

一四尺 三九〇 二、八七二・七四〇

一三尺 四二〇 二、八七四・四八〇

一八尺 一〇、六四七 七二、四六二・六一八

一五尺 六〇〇 三、四一三・七四二

二二尺 一五三 七五八・二六八

二〇尺 五一 二四〇・七二〇

一八尺 一、八三五 六、二七六・二四九

一五尺 一、四〇七 四、八二〇・一五〇

一五尺 二六、五二三・七五^尺 四、一七四・八三八

五米突 三四〇 七五一・一〇〇

二米突五 四、三九九 二七、八一・七三〇

一米突二五 一六〇 五一三・二六五

二米突五 二五五 四七三・一七〇

一米突二五 二五八 九五五・三二〇

二米突二五 二八三 六三三・四七三

五合積 二一九 七、七三八・六四三

一合積 四六三 九二、八二六・九三三

八勺積 一六八 三、五八三・九〇三

五勺積 五四 二、四八六・一七六

土砂運搬車 二、二五六 九四、四五六・〇五〇

各種枕木
すこっぶ
〔七九尺
八、七五七
八六、八〇一
七四、二二〇〕

一六九、七七八

七六、三二二・六二〇

二一、八五四

一一、四八二・七五〇

第二項 土地收用

用地買収ハ三十九年五月ヨリ開始シ先以テ植木町及飯塚町ニ出張員詰所ヲ置キ鞍手嘉穂田川ノ三郡内ノ調査ニ從事セシム
 四十年十一月以上三郡内一齊ニ其價格ヲ表示セシニ一時ハ多少苦情ヲ唱ヘ急速ニ應諾スヘキ様モ見エサリシカ漸次彼
 我事情ノ相疎通スルニ隨ヒ續々承諾ヲ表シ豫想外ノ好果ヲ得タリ

四十年九月遠賀郡内ノ土地調査ニ着手ノ爲メ蘆屋町ニ出張員詰所ヲ設ケ四十一年九月買収價格ヲ表示ス本郡ハ下流ニ當
 リ上流地方トハ自ラ利害關係ヲ異ニスルヲ以テ關係地主ハ各所ニ集合協議ヲ重ネ種々苦情ヲ唱ヘタリシモ漸次示談ヲ整
 ヘタリ追加工事ニ要シタル土地ハ大正五年度ニ於テ夫々買収ノ協議ヲ了ス

其他工事ノ實施ニ際シ局部ノ收用ハ其都度之ヲ行ヘリ又所有者ノ希望ニ依リ土地ノ交換ヲナシタルモノ或ハ寄附ヲ受納
 セシモノアリ左ニ收用土地段別並ニ買上料郡別表工作物坪數並ニ移轉料郡別表寄附交換土地調書河敷トセル官有地調書
 等ヲ掲ク

土地段別並ニ買上料郡別表

甲 明治四十一年ヨリ第一次工事ニ收用
 乙 大正五年ヨリ追加工事ニ收用

種別	郡名	鞍手郡	遠賀郡	嘉穂郡	田川郡	計
田	甲	1,708.013	1,231.012	1,036.102	560.201	4,535.328
	乙	1,331.230	1,276.230	1,873.230	1,374.230	5,855.920
園	甲	1,231.012	1,231.012	1,231.012	1,231.012	4,924.048
	乙	1,231.012	1,231.012	1,231.012	1,231.012	4,924.048
計		4,266.463	3,965.464	4,171.356	2,196.435	15,599.718

論說報告 遠賀川改修工事概要

種別	郡名	雑地		宅地		畑		合計	
		乙	甲	乙	甲	乙	甲		
収入印紙補償	計	圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000
		圓	段	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	1,000,000,000	000,000,000	2,000,000,000

工作物坪數並ニ移轉料郡別表 同上

種別	郡名	計	田川郡	嘉穂郡	遠賀郡	鞍手郡
収入印紙補償	計	2,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000	1,000,000,000
	田川郡	1,000,000,000	1,000,000,000	0	0	0
	嘉穂郡	1,000,000,000	0	1,000,000,000	0	0
	遠賀郡	1,000,000,000	0	0	1,000,000,000	0
	鞍手郡	1,000,000,000	0	0	0	1,000,000,000

論說報告 遠賀川改修工事概要

郡	町村	大字	段別	面積	價格	地主	摘要
鞍手	直方	山部	段	・三二七	二・〇〇一〇	和田寶助	直方町大字直方地内官有沼地二一四歩ト交換
同	同	同	段	・三二四	二六・二二〇	貝島太助	同上地内官有地三二四歩ト交換
同	下境	同	段	三・七・六一二	三・一七八・八四〇	同 人	同上地内廢堤敷一八段三一〇歩ヲ無償下付ノ目的ニテ寄附
同	直方	直方	段	二・四〇三	一七・七八二〇	同 人	同町大字山部地内廢堤敷一段五二八歩ヲ無償下付ノ目的ニテ寄附
同	同	山部	段	・八〇六	七二・四八〇	同 人	下境村地内ニ於ケル道路敷七〇坪八五並ニ水路敷一五五坪ト交換ノ目的
同	同	直方	段	・五二七	二三・〇一一〇	同 人	直方町地内道路敷一〇九坪四並ニ堤防敷八〇坪ト交換ノ目的
同	植木	御德	段	・四二一	七六・一四〇	舌間稻平	附近堤防敷ト交換ノ目的
同	勝野	御德	段	・〇一三	一二・七〇〇	勝野村長	
遠賀	島津	廣渡	段	・二一三	七三・〇〇〇	岩崎久米吉	
同	長津	中間	段	一・八二四	七九・九四〇	同 人	長津村大字中間地内ニ於ケル廢堤敷七段八二八歩ヲ無償下付ノ目的
同	島津	島津	段	四・三〇九	四五八・八八〇	同 人	
同	同	廣渡	段	・三一六	一〇六・〇〇〇	高崎卯之助	

寄附交換土地調書

項目	面積	價格	地主	摘要
建設家坪	六,七〇六・一〇〇	一,三三三・二〇〇	一,三三三・二〇〇	一,三三三・二〇〇
移轉料	一,七六一・〇〇〇	一,七六一・〇〇〇	一,〇〇〇・〇〇〇	一,〇〇〇・〇〇〇
合計	八,四一七・一〇〇	三,〇九四・二〇〇	一,三三三・二〇〇	一,三三三・二〇〇
收入印紙補償	一〇五・四二四・七〇〇	一〇五・四二四・七〇〇	一〇五・四二四・七〇〇	一〇五・四二四・七〇〇

論説報告 遠賀川改修工事概要

郡	町村	大字	段別	價格	地主	摘	要
嘉	穂	飯塚	下三緒	二二・五二四	麻生 太吉	飯塚町地内廢川廢堤敷七八段一二二步ヲ無償下付ノ目的	
同	同	同	菰田	一・〇〇一	飯塚町長		
鞍	手	木屋瀬	木屋瀬	〇・一七	永源 寺		
同	川	伊田	伊田	五・三九	藤井 淳一		
鞍	手	新入	下新入	四・〇一一	青柳 松次郎	新入村大字下新入廢堤廢川敷四段二二三步ヲ無償下付ノ目的	
同	同	同	同	四・一四	岩崎 久米吉	長津村大字中間發川敷八段二二五步三ヲ無償下付ノ目的	
同	同	同	同	一・〇二七・三八〇	堀 三太郎	新入村大字知古廢堤敷五段〇二七步ヲ無償下付ノ目的	
同	同	同	同	一・三三四	同		
同	同	同	同	五三七・三七〇	同		
同	同	同	同	九二九	同		

河敷トセル官有地調書

官有社寺地並ニ道路敷其他ヨリ河敷へ組替へタルモノ
河敷ニ組替ヲナスヘキ鐵道用地

計 一、九六五・四一六・三
五〇・二二〇・九三
二、〇一五・七〇七・二三

附帶工事狹間川潰地種別表

年度	種別	田	畑	雜地	計	收入印紙補償
四十四年度	段	一九・一〇二	一・三二六	・一〇二	二〇・五三〇	一〇・三七〇
	圓	四、五三二・二〇〇	五二・二〇〇	四・三〇〇	四、五八八・七〇〇	

第三項 掘鑿工事 附岩切工事

掘鑿工事ト稱スルハ河積ヲ擴大スル爲メ洪水敷ノ掘鑿ヲナスモノニシテ改修區域堤外地ハ一帯ニ深三尺乃至五六尺ノ掘

下ケテ要シ其土積割合ニ多量ナリ從テ掘鑿工事工程ノ如何ハ改修工事全般ニ多大ノ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ之カ施行ニ當リテハ最モ注意ト努力トヲ要シ常ニ從務者ヲ激勵シ以テ好成績ヲ舉クルヲ得タリ蓋シ該地方ハ鑛業最モ殷盛ノ地ナレハ農民ノ男女ハ多ク炭坑^四外ノ運搬其他ノ雜役ニ從事シ勞銀高率且ツ人夫拂底ナリ如此狀況ナリシヲ以テ工事起工ニ當リテハ所要ノ人夫ヲ得ルニ非常ニ困難ナリシモ人夫使役ノ方法寬嚴其當ヲ得賃金支拂ノ正確ナル等漸次近郷ニ周知セラレ競フテ出役ヲナスニ至リ加フルニ四十二年以來炭況稍々沈靜シ各坑其出炭ヲ控ユルニ及ヒ一般ニ人夫激増勞銀ノ低下ヲ來シタルヲ以テ此機ニ乘シ大ニ工事ノ發展ヲ計リ終局ニ於テ違算ナキヲ得タリ

掘鑿ノ方法ハ鞍手郡直方町植木町劍村新入村下境村頓野村及遠賀郡底井野村地内ニ屬スル部分ハ土積廣大ナルヲ以テ此間ニ掘鑿機三臺及機關車ヲ配シ遠賀郡島門村地内ニ二十噸機關車彦山川及本川上流ニ五噸機關車二臺ヲ使用シ全川ヲ通シ人力掘馬力運搬及人力運搬即チ輕便土運車運搬并ニ人肩運搬ノ方法ヲ採レリ

掘鑿地ノ土質ハ遠賀郡島門村水卷村鞍手郡植木町新入村頓野村及嘉穂郡飯塚町地内ニ粘土質多ク田川郡方城村地内ニ硬固ナル厚キ砂礫層アリ他ハ概シテ砂及砂交リ眞土ニシテ洪水敷ノ掘鑿ハ作業困難ナラス頓野村地内彦山川低水敷及島門村地内洪水敷ノ掘鑿ニハ湧水多ク何レモ水替ヘニ唧筒ヲ使用セリ

掘鑿機用ノ軌條ハ從來三十封度軌條ヲ使用セシカ其不利トスルコロハ多數ノ枕木ヲ要スルコト軌條ハ掘鑿機ノ重量ニ耐ヘス忽チ上下ニ彎曲シ其結果繼目板ノ折損夥多ナルコト掘鑿機ノ車輪屢々空轉シテ進退ノ自由ヲ失フコト等作業上障害少ナカラサリシカ四十二年九月以來六十封度軌條ニ布設替ヘヲナシタルヲ以テ前記ノ故障ハ殆ント除去セラレ工程進捗上ノ利益尠々ナラサルナリ

六十封度軌條ハ線路ノ横越ニ當リ三十封度軌條ニ比シ人夫掛リノ増加ヲ見ルハ止ムヲ得サルナリ今掘鑿土砂百坪當リニ於テ一例ヲ舉クレハ

論説報告 遠賀川改修工事概要

種別

賃金 百坪當

摘

要

一八

三十磅軌條

五・三三七

六十磅軌條

六・八六〇

増額一、五二三圓ニシテ二割八分五厘強ニ當ル

頓野及新入掘鑿中硬固ナル粘土ノタメ掘鑿機ノ作業困難ヲ極メ一度ヒばけつとニ搔キ揚ケラレタル土砂ハ上部たんぶら
 一ノ個所ニテ廻轉放出スルニ當リしゅうとニ向ヒ落下スルコト僅少ニシテ其大部ハ掘鑿跡ノ方向ニ逆行シ土運車ノ積載
 意ノ如クナラス考案ノ末試ミニばけつと數個ノ鐵蓋ヲ取外シテ運轉セシニ無蓋ノモノハ土砂ノ放出ヲ妨ケラル、コト少
 ナク且ツ他ニ障害ナキ見込付キタレハ直ニ全部ノ蓋ヲ取外シタリ其結果後方ニ逆下スル土砂モ順次ばけつとニ收容セラ
 レ從來ノ如ク散逸スルコト極メテ稀少トナリ土運車ノ積載ヲ迅速ニシ掘鑿時間ノ短縮ヲ得タリ

遠賀郡底井野村大字下大隈嘉穂郡飯塚町大字鯉田田川郡伊田町大字伊田ノ三箇所ニ岩層ヨリ成ル丘陵ノ突起スルアリ岩
 質硬固ナラス大部ハ鶴嘴ヲ以テ掘り起スヲ得ルモ内部ハ稍々硬ク爆藥ヲ使用シテ之ヲ破碎シタリ此他山鹿掘鑿橋第二
 掘鑿上境掘鑿中ニモ岩層アリ爆藥ヲ使用シテ破碎シタルモ其量大ナラス前者ハ岩切工事トシテ整理セルモ後者ハ掘鑿土
 砂中ニ包含セシメタリ

掘鑿土砂内譯ハ別表ノ通ニシテ其堤防築立ニ充當シタルモノヲ除キテハ悉ク官地(廢川敷地等)及民有地ニ放棄シタリ元
 來本工事ニ於テハ掘鑿不用土砂過多ナルヲ以テ當初ハ其捨場ヲ得ルニ考慮ヲ費シタリシカ恰モ炭坑掘進ノタメ各所ニ地
 表陷落續出シ之レカ復舊ヲ計ルモノ或ハ濕地ヲ乾田ニ改良スルモノ堤内凹地ノ埋立ヲナスモノ等此機ニ乘シ耕地整理ヲ
 行フモノ簇出シ争フテ土砂ノ投棄ヲ出願シ運搬費用ノ幾分トシテ石炭及車軸油等ノ寄附ヲ申出テ又ハ人夫土工器具等ヲ
 提供スルモノアリ爲メニ剩土處分上非常ノ好都合ヲ得且ツ工費ニ幾分ノ餘裕ヲ生スルニ至レリ掘鑿土砂處分別寄附及提
 供物件ノ價格ハ次表ノ如シ

掘鑿土砂處分別表

論說報告 遠賀川改修工事概要

寄附及提供物件見積價格一覽

年度	堤防築立	廢川敷土 官地捨土	民地捨土	計
明治四〇	一〇、〇七七・七五		六五七・五九	
同 四一	八二、八五一・五二		三三、〇〇九・八二	
同 四二	一九三、〇〇六・一九		三一、七四〇・一六	
同 四三	二六四、八九六・六三		一一七、八八七・四五	
同 四四	二七八、四八〇・五五		一二三、〇〇二・〇〇	
大正 元	一二四、四七二・六六		一三六、六〇八・七五	
同 二	一〇〇、八一二・五六		八〇、一九五・五〇	
同 三	五九、〇三九・一四		八五、〇八二・四三	
同 四	四一、〇五四・五六		四三、九六五・二〇	
同 五	七八、七一七・六〇五		五、七三一・六二	
同 六	一二、八九〇・四九		三二、四二四・八六	
同 七		六、四八四・四七	八、九八一・五一	
合計	一、二四六、二九九・六五五	三六三、二七五・二三	六九九、二八六・八九	二、三〇八、八六一・七七五
備考	×印ハ岩切工事ノ坪數ニシテ掘鑿土砂坪内ニ包含ス			

放棄坪數

寄附品

提供品

勞力

合計

平均一坪當

見積價格

七四七、六〇九^坪

八七、三八〇・七八四^坪

二一、五六〇・四五四^坪

三一、九二六・四三七^坪

一四〇、八六七・六七五^坪

一八八^坪

論說報告 遠賀川改修工事概要

備考 提供品ハ寸こぶ、枕木、軌條、橋材、土運車用材等ニシテ使用後ハ何レモ返却セリ

放棄土砂坪中ニハ無料放棄セシ坪數二一五、四三六坪ヲ合算シ寄附品勞力中ニハ土砂放棄ニ關係ナク改修工事ノ利害關係者等ヨリ寄附セルモノ合計二二、一五二坪ニテ含ム

寄附物件明細調

品目	數量	價格	摘要
家屋	一棟	一、二〇〇・〇〇〇	
石炭	二八、〇九五・八五	七六、一三二・三八四	
車軸油	三九八・五	四、六六六・三〇〇	
しりんだー油	二六・五八	一、三六九・〇〇〇	
ましん油	一一・三八	三、一〇六・七〇〇	
海綿	一五・三〇〇	二一〇・四〇〇	
ぼる	九〇・〇〇〇	三六・〇〇〇	
松枕木	三、〇〇〇	六六・〇〇〇	
計		八七、三八〇・七八四	

土砂放棄出願段別及坪數表

郡	町	村	耕宅地廢川敷地等		學校敷地道路堤防等	
			出願段別	捨土立坪	出願段別	捨土立坪
遠賀郡	遠賀	蘆屋	一九七・四〇三	四四、一一三・七五		
		鳥門	一八八・二二一	一八、八四六・七〇		
		淺木	五・〇〇〇	一、一二七・五〇		
		水卷	五六六・〇〇〇	三一、一〇八・五六		
		長津	二二四・九一六	二九、〇七七・八三		四、五七三・九〇

論說報告 遠賀川改修工事概要

合 計		田 川		嘉 穂		鞍 手												
伊田	伊田	金城	上方野	穂波	飯塚	顯田	宮田	香井田	勝野	福地	下境	頓野	直方	新入	植木	木屋瀬	底井野	
四、六八七、九一三	四、六〇八、八一八	二七三、五二五	一三三、〇一二	一、二二九	二、八六五、九二六	六、三一一〇	二〇八、〇一五	二四一、九二七	一、一七八、二四	二七四、八二三	五七七、五二二	一〇四、一一〇	二六八、四二八	一、〇五四、七二六	一六、八一二	一、三二〇	一、二九八、九二七	
七四五、〇七五、一四	七二六、四四八、六一	五九、一七五、三〇	九、九八八、一八	四一、一〇一	四八〇、一四二、〇四	一、九六四、一〇	一九、一〇五、六二	一〇、〇〇〇、八二	九、八〇八、八〇	九、二二八、六四	一〇三、九七五、四七	三四、三四二、〇〇	一四六、〇二九、五七	一四二、三七九、四四	四、八七一、六八	四〇〇、〇〇〇	三二、九七九、六一	
七九、〇二五	八六二、四九	八六二、四九	九、九八八、一八	一六、八二一	六二二、二〇四	一六、八二一	八、六一九	二八六、七九	四一、二、六〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	四、八一三	三一、〇〇〇	一、二〇一、五二	一七、七〇二	四、五七三、九〇	二、六七六、八〇	
二八、六二六、五三	二八、六二六、五三	二八、六二六、五三	二八、六二六、五三	二、六七六、八〇	二、五二一、三三四	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇	二、六七六、八〇

今起工ヨリ大正五年度迄ノ間ニ於テ殆ント條件ヲ同シクシタルモノヲ撰ミ各掘鑿工事ニ付坪當リヲ算出セシニ其結果次ノ如シ

河 名	機 械 掘	人 力 掘				維 費
		二十噸機關車	五噸機關車	馬力	人力	
本川 遠賀川鐵道橋以下	附掘 ・二三八 ・三三八 ・二四九	〇	〇	・七八〇	・四八一	・五五二 〇六七五
同 中間遠賀川鐵道橋間	附掘 ・二六六 ・三二六 ・二二七	・八一	・九〇四	・七五五	・六三八	・五四二 ・〇五四六
同 直方中間鐵道橋間	附掘 ・二六六 ・三二六 ・二二七	・七八二	・六七六	・四九二	・六四五	・〇八一八
同 直方以上		・六九八	・五五七	・七二五	・〇七三四	・〇七三四
彦 山 川		・九一八	・七二三	・五三四	・六三九	・〇五七七
泉 河 内 川		・六三八	・五九八	・六六六	・〇五八六	・〇五八六
中 元 寺 川		・六五三	・四八八	・七〇七	・〇五五五	・〇五五五
犬 鳴 川		・六八四	・四八三	・六六五	・一一四六	・一一四六
平 均	掘 ・二〇〇 ・三五三	・八六八	・七〇一	・五三四	・六四三	・〇七〇五

備考

- 一 本表ハ土坪九九八、八一九坪餘ニツキ算出シタルモノナリ
- 二 大正六年以降ハ著シク物價勞銀昂騰セルニツキ五年度迄ノ調査ニ止メタリ
- 三 表中ノ金額ハ勞力消耗費等ヲ加算シタルモノニシテ掘ハ掘鑿機掘上運ハ機關車運搬附ハ附隨工事費ナリ

總日數ト就業日數ノ比ハ左ノ如シ

飯塚方面	總日數百ニ對スル就業日數	七五・三
金田方面	同	七六・九

直方方面	同	七六・三
宮田方面	同	七七・一
蘆屋方面	同	七三・六
以上平均	同	七五・六
蘆屋浚渫	同	五六・一

但就業日數ニハ中止日數ヲ含ム

蘆屋浚渫ハ冬期十一月ヨリ翌年三月迄ノ間西北風強ク波濤ノ爲メ休業ノ日多キモ船舶ノ修繕ニ費消シタル日數最モ多キヲ數フ今其割合ヲ見ルニ休業百日ノ内修繕六一・風波二〇・三其他一八・七ナリ

第四項 築堤工事

築堤工事ハ改修區域全部ニ亘リ施行セル主要ナル工事トス其築立土砂ハ悉ク洪水敷掘鑿土砂ヲ充當スル計畫ノ下ニ掘鑿工事ノ進工ニ伴ヒ漸次功程ヲ進捗セリ僅ニ本川上流飯塚町及大谷村地内其他ニ於テ掘鑿土砂不足ノタメ幾分ノ築立土砂ヲ採取シタルトコロアリ

土質ハ眞土粘土砂交リ土等最多キヲ占メ彦山川上流伊田町地内ニ不得止砂利交リ礫ヲ以テ築立ヲナシタル所アルノミ堤防ハ直方町以下河口ニ至ル間馬踏五間其他ハ二間乃至三間表裏ニ割法トス規準高ハ洪水位上三尺トシ更ニ土砂ノ沈定ヲ見込ミ一割ノ餘盛ヲナス(彦山川筋田川郡上野村地内ヨリ本川合流迄ハ掘鑿土ノ剩餘多キヲ以テ馬踏幅五間トシテ實施セリ)

堤敷地ハ總テ雜草竹木等ヲ芟除シ竹木根ヲ掘取り田畑ノ如キハ特ニ牛馬ヲシテ鋤耕セシメ稻株草根等ヲ拾ヒ取り充分掃除ヲナサシメタル後土砂ヲ搬出ス又新舊堤防取付ノトコロハ必ス約一尺ノ階段狀ニ切取り新舊土砂ノ密着ヲ計レリ土砂ハ機關車捨場ニテ四尺輕便土運車捨場ニテ二尺以內ノ高サニ搬出シ漸次層狀ヲ以テ堤天ニ達セシム而シテ土砂搬出

ヨリ築立ニ着手スル迄ノ期間ハ長キハ三四年間放擲セシモノアリ何處モ充分土砂ノ沈下安定ヲ計リタル後築立土羽仕立ニ着手セリ

築立土砂ニハ草根竹木ノ細片タモ混入ヲ禁シ土羽ハ千本搗等ニテ搗固メ細心ノ注意ヲ拂ヒ築立テタルカ地盤軟弱ナル個所及池沼等ノ埋立ヲナシタル部分ニ於テ後日沈下又ハ法面ノ崩壞ヲ來セシトコロアリ又炭坑ノ爲メ地盤陷落シ更ニ堤防ヲ増補シタルトコロアリ今後ニ於テ尙ホ注意ヲ要スル部分ヲ左ニ列記ス

河川名	左岸別	郡	町村	區	域	摘	要
本川	左岸	遠賀	島門	自一里五丁至一里三〇丁	圓七廻ヲ埋立テタルトコロ一體ニ地盤宜シカラス		
同	同	同	同	同	同	堀川及山田川沿ヒ地盤軟弱ノトコロナリ	
犬鳴川	岡	鞍手	植木	花ノ木堰附近	花ノ木堰用水路ノ爲メ充分ノ法數ヲ得サルトコロナリ		

堤防築立土ハ一、二九〇、七九六坪九一五ニシテ内四四、四九七坪二六ハ特ニ採取セシモノ其他ハ總テ掘鑿土砂ヲ充用シタリ

總 土 坪	總 工 費	立寄坪當リ	摘 要
一二九〇、七九六 ^坪 ・九一五	二四七、五九五 ^円 ・六七七三	一九一八一 ^円	土羽付及雜費ヲ含ム
堤 防 延 長			

河 名	左岸延長	右岸延長	計
本川	一九、五〇九 ^間 ・七	一九、六八二 ^間 ・七	三九、一九二 ^間 ・四
彦山川	八、六九二 ^間 ・三	八、一〇一 ^間 ・二	一六、七九三 ^間 ・五
犬鳴川	四、六五一 ^間 ・〇	四、二三六 ^間 ・五	八、八八七 ^間 ・五

泉河内川	1,100.0	1,515.0	2,615.0
中元寺川	2,302.6	2,558.2	4,860.8
合 計	3,612.556	3,612.556	7,349.2

本川左岸ニハ石堤長六十間ヲ合計ス

第五項 護岸工事 附採石工事

護岸工事ハ堤脚保護ノ爲メ施行シタルモノニシテ基礎ハ留杭ヲ打チ土居木取付石張ヲナシ根圍ヒニ捨石ヲ施シ或ハ並杭捨石又ハ並杭水制工其他杭柵蛇籠工等ヲ施設シタルトコロアリ河口蘆屋町大字山鹿地先ハ河幅ヲ取擴ケタル結果高約八尺ノ斷崖トナリ殊ニ風浪ノ激突ヲ受クルトコロナルヲ以テ堅牢ナル護岸ヲ施設スルコト、シ基礎岩盤ニアラサル所ハ留杭ニ土居木ヲ取付ケ花崗間知石積(勾配一割)トシ合端及裏込ニせめんとするヲ用ヒ根圍ノ必要アル部分ハ捨石ヲナセリ

彦山川岡森堰ハ古來著名ノ堰埭ニシテ改修工事施工ニ當リ其左右ヲ一面ニ切下ケ洪水敷トナシ地盤保護ノ爲メ護岸及床固メトシテ杭打石張及芝張工ヲ施設セリ其左岸洪水敷ハ面積廣大ニシテ通船ノ爲メニ開鑿セラレタル水路ノ縦貫スルアリ現今ニ於テハ殆ント船楫ノ物資ナク之ヲ存置スルハ害有テ益ナク屢々管理者ニ對シ埋塞ヲ要求シタリ然ルニ上游上野村ニ於テハ從來本堰ノ爲メ湛水ノ害ヲ被ムルコト甚タシク其補償トシテ毎歲謝米ヲ受クルノ慣例アリ殊ニ船通シテ閉塞セラル、ニ於テハ被害モ一層甚大ナルヘキヲ主張シ容易ニ應諾ヲ與ヘス恰モ四十二年七月該所床固工事中降雨出水ニ際シ滿川ノ激流劍先(本川ヨリ舟通シ水路ヲ分派スルトコロノ尖狀ヲナス分水地點)石張ト第一床固メトノ中間ヨリ船通シニ向テ突破シ濁流滔々忽チ大河ヲ形成シ危害ノ及フトコロ測リ知ルヘカラサルモノアリシカ急速ニ假締切テ施行シ防止復舊ニ努メ辛フシテ大事ニ至ラシメサルヲ得タリ其後モ出水ノ都度多少ノ被害ヲ免カレス益々其閉塞ノ急要ナルヲ感シ更ニ縣當事者ヨリ交渉ヲ重ネシメ漸ク大正二年ニ至リ改修工事施行ノ結果湛水ノ害全ク除却セラレタルヲ認ムルニ及ヒ之カ閉塞ヲ承認シ且將來ノ謝米ヲ廢

シ一時金若干ヲ贈リ茲ニ兩郡永年ノ問題解決セリ管理者ハ直ニ船通シノ埋立ヲナシタルニヨリ前年施工セシ床固メニ連續シテ石張及芝張工ヲ完成シタリ

今ヤ堰附近洪水敷ハ一面坦々トシテ芝草繁茂シ濁流巨漲モ亦昔日ノ暴威ヲ振フニ由ナク鞍東ノ秋收爲メニ賑々タリ

參考 岡森堰ハ著名ノ用水堰ニシテ安永明和年間土地ノ大庄屋善吉ナルモノ、營設ニ係ルト云フ其構造ハ野石ヲ以テ組立テ長三十四間打流十間高一間中央ニ舟通シ一箇所アリ用水路ハ左右各一箇所灌溉段別往古ハ八百町歩以上ト稱セラレタルモ現今ハ二百五十七町餘歩トナレリ

如此効益アルト同時ニ一面上流田川郡上野村ニ於テハ爲メニ湛水ノ害アルヲ以テ灌溉地主ヨリ水害補償トシテ謝米ト稱ヘ年々米二百七十俵ヲ上野村へ贈付スルヲ例トセリ其後明治九年ニ至リ時ノ縣令渡邊清氏其補償額ヲ三分シ一ハ内務省ニ訴願シテ湛水耕地ノ地價ヲ低減シ一ハ灌溉地主ニ於テ補償シ一ハ湛水地主ニ於テ酌量スルコト、ナシタルカ明治二十年八月ヨリ補償米ヲ金員ニ改メ毎年一百二十六圓ヲ水上ヘ支向ケ四十四年ニ及ヘリ四十五年五月改修工事ノ爲メ土地收用セラレ水下灌溉段別減少等ノ事情ヲ參酌シ改修工事完成ノ結果ヲ視ル迄水上水下協議ノ結果之ヲ金八十六圓ニ改メタリ大正二年更ニ協議ヲ遂ケ年々ノ補償ヲ廢シ一時金一千五百圓ヲ水上ニ贈付セリト云フ(管理者ハ鞍手郡長ナリ)

附採石工事

護岸工事用割石及裏詰ハ一部公入札ニ付シタルモ豫定價格ヲ超過スルコト多大ナリシニ因リ直營採取ノ計畫ヲ立テ蘆屋町大字山鹿字城山ニ於テ石材採取權ヲ大正二年十月ヨリ向フ二箇年間收得シ之ニ對シ補償金八百圓ヲ支拂ヒ尙ホ道路及置場トシテ附近民地約一段六畝歩ヲ借上ケ料金七十九圓五十錢ヲ支拂フ石材ハ護岸工事及直營ニ係ル島門村附帶工事ニ使用シ補償金及借地料ハ水制費及附帶工事補助費ノ兩科目ヨリ分割支拂ヒタリ爾來石材ハ購入ニ比シ採取ノ遙カニ得策ナルヲ認メ亞テ本川筋上流飯塚彦山川筋伊田犬鳴川筋富田ノ各地ニ採石工場ヲ設ケタリ採掘方法ハ火藥持チ石工ヲ使役シ岩石ニ小孔ヲ穿チ火藥又ハ燗藥ヲ裝填破壊セシムル普通ノ方法ニヨリ運搬ハ山鹿工場ニ於テハ一合積土運車ニテ河岸

迄(約百二十間下リ勾配二十分ノ一)搬出シ五合積川船ニ積ミ使用地附近ニ陸揚ケラナシ更ニ一合積土運車ニテ現場ニ運搬ス又本川及彦山川上流ニ於テハ何レモ荷馬車ヲ使用シ宮田採石ハ川船ヲ併用セリ其功程別表ニ詳カナリ

採石場補償金調

場 所	採取面積	契約期間	補償金	土地使用料等	摘 要
遠賀郡蘆屋町大字山鹿	五〇〇〇 ^坪	二箇年	五三〇〇〇〇	四五〇〇〇	水制費支辨 附帯工事補助費支出
同	一〇〇〇〇	一箇年	二七〇〇〇〇	三四・五〇〇	面積増加 期限延長 水制費支辨 附帯工事補助費支辨
同	一〇〇〇〇	一箇年	一〇七〇〇〇	二〇〇〇〇	水制費支辨
同	二五〇・七四	一箇年半	四〇〇〇〇〇		水制費支辨
鞍手郡宮田村大字宮田	二四〇〇〇	二箇年	二〇〇〇〇〇		同 上
同	一箇年	一箇年	二九〇二〇		同 上
嘉穂郡飯塚町大字菰田	三〇〇〇〇	二箇年	二一〇〇〇〇	三〇〇〇〇	同 上
田川郡伊田町大字伊田					

第六項 浚渫工事

浚渫工事ハ河口ノ河積ヲ補フ爲メ施行シタリ其區域河口ヨリ二十丁幅員六十間乃至百二十間ヲ水深平均干潟面以下七尺ニ深セリ

浚渫船曳船土運船ハ淀川ニテ使用シタルモノヲ同航シ明治四十二年四月ヨリ着手セリ浚渫土砂ハ之ヲ十坪積底開土運船ニ積載シ曳船ニテ運搬シ河口ヲ距ル約一千間ノ海中ニ投棄ス

河底ハ概シテ純砂ナレハ作業困難ナラサリシモ船舶ノ修繕ニ多クノ日數ヲ費ヤシ最初二箇年ハ一箇年二萬坪乃至二萬七千坪ノ功程ナリシカ四十四年度ハ船員ノ熟練ト修繕日數ノ減少トニヨリ四萬一千坪ノ工程ヲ舉ケ大正元年度ニハ掘上運搬ノ回數ニ應シ船員ニ奨勵金ヲ給與シ四萬六千坪ノ好成績ヲ得タリ其後又船舶ノ修繕多ク三萬坪以上ノ功程ヲ舉クル能ハス大正四年十月ニ至リ其功程當初計畫ノ二十萬七千坪ニ達シ其工ヲ竣ヘタリ

第七項 水害復舊工事

大正七年夏季工事ノ終局ニ當リ六月二十五日及七月十一二日ノ二回ニ亘ル出水ニヨリ恰モ工事中ナリシ追加計畫ニ屬スル區域ニ於テ破堤四箇所法崩及護岸等ノ破壞セルモノ數十箇所ニ及ヘリ當時ニ於ケル改修工事費豫算殘額ハ到底是等ノ復舊費ヲ支辨スル餘裕ヲ存セス第二豫備金歲出臨時部災害費ヨリ二萬九千五百五十七圓ノ配付ヲ受ケ直ニ復舊工事ヲ施行セリ而シテ之レニ要シタル費用ハ無代價使用品見積價格ヲ併セ三萬一千九百九十七圓六十六錢三厘ニシテ其工種延長及竣功成績ハ次表ノ如シ

復舊工事工種別表

川名	築堤工事		護岸工事		堤脚保護工事		工費用 材採取工事		
	箇所數	延長 工事數	箇所數	延長 工事數	箇所數	延長 工事數	箇所數	延長 工事數	
本川	九	五八〇・八	一	一〇五・五	四	五〇六・二	一	—	
彦山川	六	三八〇・五	二	—	四	四四二・五	一	—	
中元寺川	六	五二六・〇	—	—	—	—	—	—	
犬鳴川	二	二、五八九・七	三	一一〇・〇	九	三七〇・〇	一	—	
計	四五	四、〇七七・〇	五	二二五・五	二	一七	一、三二八・七	三	—

復舊工事竣功成績表

工種別	工法	數	量	工費			坪又ハ間當リ
				勞力費	材料及消耗品費	計	
築堤	築立土砂	一〇、一九一・四三	立坪	一八、七四八・六六〇	五七二・七一〇	一九、三二一・三七〇	坪
護岸	石張	三七四・〇〇	面坪	二、一四四・七一〇	*三六・〇四〇	*三六・〇四〇	坪
					*九五四・一〇〇	二、一四四・七一〇	
						*九五四・一〇〇	八・二八六

堤脚保護	蛇籠	八二六・二	四、八七九・三一〇	二、八四三・七六八	七、七二三・〇七八	五・一五五
合 計		二五、七七二・六八〇	三、四一六・四七八	二九、一八九・一五八		

備考

- 一 表中*印ヲ付シタルハ無代價使用品ノ見積價格ナリ
- 一 築立土砂ハ全部附近洪水敷及蓄堤土砂ヲ採取ス其内譯ハ五噸機關車一、一六五坪馬力とろ四、八一二坪人方とろ二、一五三坪人方二、〇六〇坪ナリ

第八項 附帶補助工事

附帶補助工事ハ改修工事ノ爲メニ必要ヲ生シタル工事ニシテ河川法ニ據リ補助金ヲ交付シ管理者ニ於テ施行セシメタリ其主ナルモノハ用惡水路ノ付替樋閘暗渠伏樋道路橋梁ノ改築新設等ニシテ縣費支辨ニ屬スル道路橋梁工事ハ補助ヲ受ケス縣費ノミニテ施行シタリ

遠賀郡島門村大字廣渡地内狭間川付換ハ管理者ナキノ故ヲ以テ直轄工事トシ又島門村用惡水路變更工事ハ其工費巨額ニシテ村ノ負擔ニ堪ヘサルニヨリ特ニ工費全部ヲ補助シ其既成部分 (用水季節ノ關係上一定ノ計畫ニ依リ補助)ニ對シテハ工費全部ヲ交付シ未成工事ハ直轄施行シタリ

第九項 土工機械製作並ニ修理

土工機械船舶ノ組立及修理ハ本所々屬機械工場ニ於テ之ヲ管掌シ四十年二月直方ニ吏員職工ヲ派遣シ先ツ掘鑿機及機關車ノ組立ヲナシ漸次職工ヲ増員シ鍛冶室修理工場等ヲ建設ス工場及附屬倉庫ノ坪數ハ左ノ如ク四十四年六月工場ノ管理ヲ直方工區ノ所屬ニ移シタリ

鍛冶室	四〇坪	修理工場	四〇坪
倉庫	八〇坪	材木小屋	二四坪

機關車小屋 一五坪

製作並ニ修理ニ要セシ工費總計ヲ擧クレンハ左ノ如シ

土工機械製作及修理費總計表

年 度	生 産 材 料 製 作	生 産 器 械 製 作	土 工 器 械 製 作 舟船ヲ含ム	修 理	組 立 及 解 體	計
明 治 四 〇 年	一、八五五・三三			四九六・三三	一、一七三・三三	三、五二四・六六
同 四 一 年	七、三四三・四四		四、九二二	七、三〇八・七一	七、八六三・七四	三、三三三・一〇二
同 四 二 年	二、〇七〇・一五	七、〇三二	六、一〇三・八四	三、〇〇〇・三〇	三、五三三・七一	四、四三三・〇六
同 四 三 年	一、九二三・九五	一、九八八・九〇		四、〇〇七・六三	四、七〇八・〇四	六、九七七・七四
同 四 四 年	三、二九三・九五	七、〇六六		三、八七四・〇六	三、五九一・〇三	六、九七〇・九〇
大 正 元 年			一、二六六・八四	三、四四九・三七		四、七一六・二一
同 二 年		八、九三三		四、〇一一・三三		四、〇〇〇・〇六
同 三 年	七、二二三			五、六〇〇・三六		三、五七三・九八
同 四 年	三、三四六・六八	三、五八六		三、八八四・八四		三、一八六・八七
同 五 年				一七、四四三・五五		一七、四四三・五五
同 六 年	五、四〇〇・四五			一六、二四一・五八		一六、六四一・〇三
同 七 年				五、三二八・九五		五、三二八・九五
計	四八、五五五・六三	二二、四七〇	七、四八八・八四	四九、二二五・三九	四、〇八三・四一	四、〇八三・四一

第四章 改修ノ効果

洪水氾濫惡水停滯等ノ除害ハ其効果甚大ナルモノアリ殆ント改修ノ目的ヲ達シテ餘リアリト云フヘク是等ニツキテハ一々實例ニ依リ計數ヲ擧示スルヲ得サルモ河身ノ屈曲ヲ正シ堤防ヲ擴張シ河積ヲ擴張セル結果洪水停滯ノ時間ヲ減少シ水位ノ低降著シク隨テ堤防其他附屬物ノ被害極メテ鮮少トナリ耕宅地ノ浸水及惡水停滯ノ害ハ全ク除却セラレタリト云フ

モ過言ニアラス特ニ沿岸低地ニ於ケル多數ノ炭鑛ハ浸水採炭中止等ノ禍害ヨリ免ル、ヲ得礦業上ノ利益亦實ニ尠少ナラサルナリ

灌溉舟運ニ就テハ著シキ變化ヲ見サルモ一部流心ノ屈曲ヲ改良シタルト附帶工事トシテ用惡水路樋管等ノ變更改築ヲナシタルトニ依リ舊來ニ比シ稍々利便ヲ得タルモノト認メラル尙ホ生地ニ付テハ掘鑿土砂投棄ニヨリ附近陷落地(採炭ノ結果地表陷落シ水溜トナリ荒蕪ニ歸シタルモノ)ノ復舊廢川敷地並ニ建物敷地ノ埋立等約四百七十町歩ニ達シ、改修潰地ノ約一半ヲ補足スルニ足レリ

其他從前ハ堤防脆弱ナリシヲ以テ出水時ニ於テハ之レカ防禦ニ尠ナカラサル勞力ト費用トヲ要シタルノミナラス常ニ兢々トシテ安ンセサルモノアリシカ今ヤ雷ニ其憂ナク鐵道道路ノ交通モ敢テ遮斷セラル、コトナク獨リ該地方ノ利益ニ止マラサルモノ亦多大ナリトス

改修前後水位比較 (直方水量標ニテ)

年 月	最高水位	平均雨量	降雨日數
明治二十六年十月	一八・二 ^R	二七一・四 ^種	五
同 三十三年七月	一六・三三	二六七・九	五
同 三十七年六月	一八・五	二八七・六	三
同 三十八年七月	二一・九五	三五一・二	四
同 四十三年六月	一六・二五	二五八・一	四
大正 四年九月	一六・五	三〇九・五	三
同 七年七月	一三・八五	一九七・九	四

改修着手前

改修着事後

第五章 總工費及工事成績

論 說 報 告 遠賀川改修工事概要

改修費當初ノ豫算ハ金四百三十九萬五千圓ナリシカ大正五年改修區域ヲ延長シ本川彦山川犬鳴川中元寺川等ノ上流ヲ改修スルコト、ナリ工費金四十三萬六千圓ヲ追加セラル即總工費ハ金四百八十三萬一千圓ニシテ此内國庫ノ負擔金三百四十三萬一千圓福岡縣ノ負擔金百四拾萬圓ナリ (第一次追加 一、二九一、〇〇〇圓) (一〇九、〇〇〇圓)

遠賀川改修工事工費精算書

本 工 事

種 別	豫 算 高	竣 功 高	殘 高
堤 防 費	五二七、九三六	二三六、二〇九 ^甲 四八二、三 △一一、三八三、四九五	二九一、七二六、五一七、七
浚 深 費	二七三、〇〇〇	六五、四九三、五三五、四 △四六一八、四八五	二〇七、五〇六、四六四、六
掘 鑿 費	一一二三、六〇四	一、六〇六、七八五、六七八、四 △八五、八〇四、五一七	(一) △四八三、一八一、六七八、四
岩 切 費	六四〇、三四四	四四、五六一、四六四 △四九、一八二	五九五、七八二、五三六
護 岸 費	七五、三二八	一七二、八八三、五五二、四 △三六、四〇五、九七六	(一) 一九七、五五五、五五二、四
土 地 買 上 料	一、三九一、三二〇	一、三四五、二五九、六〇〇	四六、〇六〇、四〇〇
家屋其他移轉料	一五〇、九〇〇	二六七、三二四、五二〇	(一) 一一六、四二四、五二〇
諸備料及雜費	一六三、〇〇〇	一六四、三〇七、五一四 △三、九〇一、〇二七	(一) 一、三〇七、五一四
水 制 費 合 計	四、三四五、四三三	三、九〇三、八二五、三四六、五 △一四三、一六二、六八二	四四二、六〇六、六五三、五
附帶工事費補助	二八〇、五〇〇	一七二、六七七、〇三三、八 △二三、四二〇	一〇七、八二二、九六六、二
測 量 費	五、二五〇	一一、二九八、六二六	七、〇四八、六二六

量水標費	八、一〇〇	九、三三八・一三七 △一八六・九七〇	(一) 二三八・一三七
試驗費	一〇、〇〇〇	一三・七一〇	九、九八六・二九〇
船舶及機械費	一四九、五〇〇	六四二、一八九・二五八、二二五 △一〇、六三一・五三六、四〇二	(一) 四九二、六八九・二五八、二三五
管繕費	一四、三五〇	一九、三二五、三四七	(一) 四、九七五・三四七
電話費	九、七〇〇	九、六六五・〇五七、五	三四・九四二、五
惠與	六一〇〇	二七、九〇五・四五 △四八四・五〇〇	(一) 二、一八〇・五・四五
死傷手當	二、〇六八	一一、一五七・六四五	(一) 一〇、〇八九・六四五
附帶工事費		七、〇五九・五三〇 △四〇七・八〇〇	(一) 七、〇五九・五三〇
他工事轉出高		一五、六〇六・四九五、九一五 △二、五二八・四六〇	(一) 一五、六〇六・四九五、九一五
他工事ヨリ轉入高			九一五・六九八
厘位以下切捨高			三・七一八、九四
合計	四、八三一、〇〇〇	四、八三一、〇六一・六〇一、九四二 △一五六、四三三・三六八、四〇二	七一三・三八五 一四四・四三〇

災害復舊工事

種別	豫算高	竣功高	殘高
水害復舊費	二九、一五七	二九、一九二・四七八 △二、二九七・二五五	(一) 三五・四七八
遠賀川改修費ヨリ轉入高			三六・二三〇
厘位以下切捨高			・〇〇八
合計			七六〇

備考

一 表中竣功高欄ノ△印ハ寄附品其他無代價使用物品評價寄附又ハ提供人夫賃及臨時事件費所屬臨時手當(工費雇及傭人ニ對ス

論 報 遠賀川改修工事概要

ル)ニシテ残高欄ノ(一)印ハ豫算高ニ對スル超過額ナリ
 他工事ヨリ轉入セシ材料費ノ内譯左ノ如シ

一 淀川改良工事ヨリ轉入高 八二八・五二五

一 關門海峽改良工事ヨリ同上 八七・一七三

計 九一五・六九八

一 遣拂未拂ニ係ル材料ニシテ不用ニ歸シ他工事へ轉出セシモノ、内譯左ノ如シ

一 仙臺土木出張所へ轉出高 一、二六二・八九一、二

一 東京土木出張所へ同上 二、九九一・八〇七、四七五

一 新潟土木出張所へ同上 一二七・八三五

一 關門海峽改良工事へ同上 一一、一八七・六九六、二四

一 災害復舊工事へ轉用高 三六・二三〇
 △九二・四二〇

計 一五、六〇六・四五九、九一五
 △二、五二八・四六〇

一 竣功高中ニハ現金支拂ニ際シ切捨テタル厘位以下ノ金額本工事ニ三・七一八、九四 災害復舊工事ニ〇〇八ヲ含ム故ニ殘高中
 ニ此金額ヲ記載計算セリ

一 合計殘高欄ニ記入ノ一四四・四三〇ハ誤拂ノ爲メ雜收入ニ回收セル金額ナリ

一 竣功高中ニハ材料及消耗品ニシテ亡失又ハ賣却シタルモノ、代價ヲ含ム其内譯次ノ如シ

掘 鑿 費 一一八・七六四、五
 △三三五・九七〇

船舶及機械費 四一五・六四七、四

電 話 費 一一・三七八

災害復舊費 三・三二〇

遠賀川改修工事成功高調書

本 工 事

種 別	豫算高數量	成 功 高	殘 高
堤防	一、一四六・九二五・九二 九評	一、二九〇・七九六・九一五 立評	(一) 一四三・八七〇・九九五
波濤	二〇七・八四五・〇〇	二〇七・四一七・六一	四二七・三九
掘鑿	二、一六一・八〇四・二八	二、二八八・五五五・一四五	(一) 一二六・七五〇・八六五
岩切	二九・六三七・〇〇	二〇・三〇六・六三	九・三三〇・三七
護岸	三、六四五・〇〇 面評	一九、五一五・四三 面評	(一) 一五、八七〇・四三
土地收用	八、三〇〇・〇〇 期	一、四八六・五	六、八一三・五
買收	一三、二〇一・〇〇〇 段	九一、一四二・四二三・〇三 段	四、〇五八・五〇六・九七
寄附		八〇・六二九	
組替		一、九六五・四一六・三	
土地收用		五〇・二二〇・九三	
組替ヲ要スヘキ鐵道用地		一一、二三八・八二九・二六	

災害復舊工事

種 別	豫算高數量	成 功 高	殘 高
築堤復舊	九、二九〇・七〇 立評	一〇、一九一・四三	(-) 九〇〇・七三
護岸復舊	三五四・〇〇 面評	三七四・〇〇	(-) 二〇〇・〇
堤脚保護	一、二六九・七〇 期	一、三一八・七〇	(-) 四九・〇〇

備考

- 一 殘高欄(一印)ハ豫算高ニ對スル超過額ナリ
- 一 本表ハ各費目ニ於ケル豫算高ト成功高トヲ對照シタルモノニシテ計上セル數量ハ各費目ノ豫算高ニ對スルモノ、ミナリ從テ修繕工事及附隨工等ノ成功高ヲ含マス
- 一 護岸工事中護岸石垣ハ面坪ヲ以テ並杭、蛇籠杭欄水制等ハ主トシテ間ヲ以テ整理セリ

論報 遠賀川改修工事概要

- 一 買收段別中ニハ神社移轉敷地二段九二ニテ含ム
- 一 收用土地ニシテ殘地トナレルモノ買收地四畝二三官有地三畝〇七アルモ其餘地方廳ヘ引繼ケリ

遠賀川改修工事幹支川別成功高調書

川名	工事施行區域	同延長	堤防	浚渫	掘鑿	護岸
遠賀川	左岸自零丁至九里十五丁二〇間 右岸同	九里一五丁二〇間	八六、九八・五 ^{立坪}	二七、四七・六 ^{立坪}	一、七三、五八・四 ^{立坪}	二、五八・七 ^{立坪} 一〇七、七 ^{立坪}
支川 泉河内川	左岸自本川合流點至二五丁 右岸同	〇里二五丁〇間	四、五三・四		五〇、四三・四	二〇・〇
同 彦山川	左岸同 至四里二丁 右岸同 至四里零丁半	四里二丁〇間	二五、七二・六		四〇、〇七・七	六八、三・五
同 犬鳴川	左岸同 至八木山川三丁 右岸同 至同三丁一五間	二里九丁一五間	五、八五・七		一〇、〇三・六	一、九六・一
小支 中元寺川	左岸自彦山川合流點至一里五丁 右岸同 至一里八丁	一里八丁〇間	三、八五・三		三、六〇・九	一、〇〇・〇
計		一七里三三丁三五間	一、〇七、〇七・四		一〇〇、八八・一	一、〇七、〇七・四

備考

一 本表ハ前表(遠賀川改修工事成功高調書)ノ成功高ヲ幹支川ニ區分シ且ツ掘鑿及築堤工事ニ於テ附隨工トシテ施行シタル護岸其他ノ施設物及災害復舊工事中ノ堤脚保護工事トシテ新ニ施設シタル護岸等ヲ併セ計上シタリ而シテ岩切坪ハ掘鑿土坪中ニ合算セリ

一 犬鳴川ノ支流八木山川ニ屬スル成功高ハ僅少ニ付犬鳴川ヘ合算セリ

附帶工事費補助町村別一覽表

起業者	工種	工費精算額	國庫補助額	竣功年月
鞍手郡長	岡森樋開並ニ用水路變更	一、二、六七五・九七一	八、四五〇	大正元年十一月

論報 遠賀川改修工事概要

同	鞍手郡福地村長	水路並ニ里道變更	一、四七四・九一三	七七七	同	四年四月
同	同 勝野村長	惡水樋門築設	五九二・六三五	三九五	同	明治四十五年三月
同	同 同	惡水吐變更土管埋設	三八二・八一〇	二五五	同	同 年十月
同	同 同	惡水石門樋設置外十四件	二、七四九・〇〇〇	一、八三二	同	大正三年八月
同	同 同	惡水吐石門樋設置	一、七一八・〇〇〇	一、一四五	同	同 二年九月
同	同 同	惡水路護岸	二四八・〇〇〇	一六五	同	同 年九月
同	同 同	門樋築造	四、二〇五・〇〇〇	二、四三〇	同	大正六年十二月
同	同 同	樋管理設	二、九九七・七三五	一、九九八	同	同 五年八月
同	同 同	水路新設	二、二四九・七〇〇	一、四九九	同	同 五年十一月
同	同 同	樋閣新設	五、三九九・三二八	三、五九九	同	同 四年十月
同	同 同	暗渠新設土管伏設	一、二三七・六〇〇	七〇〇	同	同 八年三月
同	同 同	木橋架換	五、二八九・八一〇	二、〇一〇	同	同 年三月
同	同 同	用水路變更改築	一、四四八・二九五	九三四	同	同 七年六月
同	同 同	用水路樋閣新設變更	一、九一三・〇三〇	一、二七五	同	同 年九月
同	同 同	暗渠新設	七三〇・四〇〇	四七二	同	同 八年三月
同	同 同	暗渠新設橋梁架換	九、四六一・三六〇	六、三〇〇	同	同 年二月
計			五四、七七三・五八七	三四、二三六		
田川郡長	橋梁架換		七、九四九・四六七	五、二九九	同	大正五年一月
同 方城村長	用惡水路變更石橋架換		三〇九・三〇〇	二〇六	同	同 四年十一月
同 金田町長	水路立替暗渠新設等		三、六五四・八五〇	二、二一〇	同	同 七年十月
同 (神田村長)	用水路變更		五六七・七九〇	三三〇	同	同 五年九月
同 (神田村長)	同 上		一三五・〇〇〇	九〇	同	同 六年五月
同 同	同 上		五九三・〇〇〇	三九五	同	同 八年四月
同 同	堰保護		一、六六一・〇〇〇	一、一〇七	同	同 年四月

論報 遠賀川改修工事概要

起業者	工種	工費精算額	國庫補助額	竣功年月
同 上野村長	水路並=道路變更	二、四五八、六八七	一、六三九	同 六年五月
同 同	惡水吐樋門新設水路立替	三九七、三〇〇	二六四	同 四年十月
同 金川村長	用水路樋開新設及變更	一、五七〇、〇六〇	九八四	大正七年六月
同 伊田町長	水路付替及暗渠新設	二、八〇七、七四〇	一、八七一	同 八年三月
同 同	水路新設暗渠土管埋設	四、八八五、六〇〇	三、二五七	同 七年十月
同 同	用水路及排水暗渠改築新設	五四六、三三〇	三六四	同 七年十二月
同 同	惡水吐土管埋設	五九〇、〇〇〇	三五	同 年十二月
同 糸田村長	用水路設置	二、六七四、二五〇	一、七八二	同 八年三月
同 同	架橋及排水樋管埋設	四、三四三、九〇〇	二、八七六	同 年三月
同 同	用水路變更	五、三九六、九三〇	三、五九七	同 年三月
計		四〇、〇一〇、二〇四	二六、三二〇	
嘉 壘 郡 長	板橋架設	一三、六八三、二六八	九、一二二	大正六年十二月
同 同	橋梁架換	八、四五三、七九〇	五、六三五	同 七年十二月
同 同	水路立替	三、一〇四、七〇〇	一、九二八	同 五年六月
同 同	道路及用惡水路變更	三、〇二九、九二〇	二、〇一九	同 四年五月
同 同	堰埦變更	三、七〇四、〇〇〇	二、四六九	同 四年四月
同 同	土管布設暗渠新設	一、〇一一、九二〇	六五九	同 三年七月
同 同	用水路變更	七、一八〇、〇七六	四、七八六	同 四年十二月
同 同	水路並暗渠新設	一〇、二二一、四二〇	六、八一四	同 五年一月
同 同	樋開繼足土管布設	二一〇、〇〇〇	一四〇	同 四年十月
同 同	電動機唧筒給水設備	六、二二二、九三七	四、一四一	同 五年九月
同 同	用水路變更新設	一、八九〇、二四〇	一、二六〇	同 八年三月
同 飯塚町長	堰埦左岸法石張及洪水敷石張	一、三六九、八一〇	三一	大正八年一月

同	穗波村長	水路付管及暗渠新設	二、九〇八・五五〇	一、九三九	大正四年八月
同	稻築村長	排水及用水路變更	二三九・五二〇	一五九	同 七年六月
計	遊賀郡香月村 耕地整理委員	揚水機設備	六三三三〇・一五一	四一三八二	
同	底井野村長	石込樋變更	三、〇〇五・三三〇	一九三四	大正七年六月
同	同	用水路付管	一、三二九・〇二〇	七八八	同 六年八月
同	水巻村長	山田川改設	八、〇八七・六五一	五、二二八	同 七年六月
同	同	用強水路變更	二七、九九八・三〇二	一八、六六五	同 六年五月
同	島門村長	用強水路變更	四四、七九六・八四五	四四、七九六・八四五	同 五年八月
計			八五、一一二・一三八	七二、四一一・八四五	
總計			二四三、一一一・〇八〇	一七三、三三九・八四五	

掘整機及機關車成績表

機名	總日數	作業日數			土坪	工費					計	
		天候	修繕	其他		石	炭	白炭油	其他消耗品	勞力費		雜費
掘整機 (十時間二百坪期)	7,512	1,995	599	1,234	3,118	4,894	563,652.60 百坪當り	20,012.248 百坪當り	3,088.584	1,864.348	63,513.487	89,478.667 15,874
廿噸機關車 (人力適用)	3,215	587	317	562	1,466	1,779	159,342.85 百坪當り	7,234.848	1,578.917	1,357.400	112,653.341	9,223.129 132,047.635 82,870
五噸機關車 (人力適用)	5,735	1,008	1,089	837	2,904	2,931	144,146.14 百坪當り	15,965.037	1,777.093	1,773.426	84,863.012	11,564.128 101,574
機關車 (機械適用)	7,965	1,327	648	1,388	3,363	4,002	563,652.600 百坪當り	30,536.733	5,845.749	5,184.954	177,816.325	31,547 51,011.209 270,694.970 48,025

- 1 金額中ニハ帶附品其他無代價品見取價格ヲ含ム
- 1 勞力費ニハ機械付員費土取場地均シ、截込倉方、線路布設取除キ其他雜役人夫賃ヲ含ム
- 1 表中金額ハ單位以下四捨五入セリ

1 諸機使用費年度別ハ下ノ如シ

年度	41	42	43	44	1	2	3	4	5	6	7
掘 鑿 機	2	3	3	3	3	3	3	1			
廿噸機關車			1	1	2	2	2	3	2		
五噸機關車			1	2	2	2	2	2	2	2	2
機械掘用機關車	2	3	3	3	4	3	3	5	2		

工 法 別 功 程 表

工 事 名	工 事 年 度 数	掘 鑿 機 数	機 關 車 数	五 噸 機 關 車 数	土 文 工 間 数	工 費				一 坪 當			
						工 費	修 理 費	毀 損 費	計	工 費	修 理 費	毀 損 費	計
機械掘廿噸機關車運搬	9	1-3	2-5	60-329	563,652.60	367,342.866	109,192,645	53,848,988	530,384,500	0.652	0.194	0.096	0.941
人力掘廿噸機關車運搬	8	1-3	58-158		159,342.85	133,529,769	25,688,764	32,039,878	191,288,412	0.838	0.161	0.201	1.200
人力掘五噸機關車運搬	10		2		114,146.14	113,097,487	48,993,298	13,356,742	173,452,528	0.991	0.429	0.117	1.537
人力掘輕便土運車馬力運搬	11				763,849.96	610,253,087	54,327,675	10,805,308	675,386,071	0.800	0.071	0.014	0.885
人力掘輕便土運車人力運搬	12				412,497.165	264,558,286	31,239,176	4,538,135	300,335,598	0.641	0.076	0.011	0.728
人力掘人肩運搬	11				275,796.39	201,023,117	3,175,005	2,115,417	206,313,540	0.729	0.012	0.008	0.748
掘 鑿 合 計					2,288,555.145	1,691,836,210	272,621,566	116,704,470	2,081,222,247	0.739	0.119	0.051	0.909
浚 深 工 事	8	1	4-5		207,417.61	67,502,920	49,239,090	2,361,652	119,133,662	0.325	0.238	0.011	0.574
岩 切 工 事	7				20,306.63	44,610,646	224,098	206,142	45,050,886	2.197	0.012	0.010	2.219
築 堤 工 事	11				1,291,437,945	247,892,977	2,441,116	2,045,778	252,379,872	0.192	0.002	0.002	0.195
護 岸 工 事	10				19,691.43	210,640,508	68,523	71,316	210,780,647				

1 本表記入数量ハ各費目ニ於ケル目的工事(明瞭工等ノ成功数量ヲ除ク)ノ成功高ニシテ工費ハ各費目ノ全額ナリ
而シテ数量中ニハ坪當リ工費ヲ見ル爲ニ特ニ修葺工事ノ名ニヨリ施行シタル成功高ヲ含ム

- 1 金額中ニハ寄附品拾集品其他無代價使用品ノ見込價格ヲ含ム
- 1 修理費中ニハ組立費ヲ含ム
- 1 岩切工事ノ進搬ハ馬力トシテ、人力トシテ一人肩運搬ニヨル
- 1 築堤工事費ニハ石堤工事費ヲ含ム金額 4,774,756 ナリ
- 1 築岸工事ハ運搬物區々ナルニヨリ單價當リヲ算出セズ
- 1 表中單位以下切捨テタリ

採石工事功程表 其一 山鹿採石工事

種 類	數 量	石 割 費			運 搬 費			雜 費 計	總 計			
		石 工	火 藥	人 夫	水上運搬 船持船夫	山出及積 込入人夫	陸上運 搬人夫			材料及 消耗品		
張 面一尺 扣一尺二寸 石	136,160 ^冊	5,032,000 ^冊	222,550 ^冊	342,570 ^冊	5,598,320 ^冊	890,550 ^冊	318,720 ^冊	766,510 ^冊	130,381 ^冊	2,165,881 ^冊	327,863 ^冊	8,092,064 ^冊
張 面一尺二寸 扣一尺八寸 石	百個當リ 9,375 ^冊	3,696	164	252	4,112	654	231	563	140	1,591	21	5,943
拾 十貫匁以上 石	百個當リ 1,298,000 ^冊	294,150	23,500	102,590	420,240	261,700	20,250	15,930	715	203,625	60,453	779,318
小 割 石	1,133,560 ^冊 一坪當リ	3,133	251	1,094	4,483	2,791	316	170	008	3,185	545	8,318
	1,298,000 ^冊 一坪當リ	3,250,710	405,690	699,980	4,345,380	2,479,750	521,310	464,760	9,885	3,478,735	803,870	8,628,985
	1,133,560 ^冊 一坪當リ	2,504	313	532	3,349	1,910	404	358	008	2,681	61	6,643
	1,133,560 ^冊 一坪當リ	2,040,770	331,030	383,850	2,755,650	1,302,930	215,360	563,650	5,940	2,163,500	673,754	5,594,904
		1,800	292	331	2,431	1,119	282	502	005	1,909	596	4,985

摘 要

- 1 數量ハ大正三年ヨリ大正五年迄ノ採石數量ナリ
- 1 拾石ノ内個數ヲ以テ整理シタルモノ 68,838 個アリ便宜上 180 個ヲ坪トシテ坪ニ換算セリ
- 1 表中年度計ノ搬運費内ニハ採石權買取費 637 圓及ヒ借地料 45 圓合計 682 圓ヲ含ム

- 1 本表工費ニハ無代價使用物品ノ見積價格ヲ含ム
- 1 陸上運搬ハ一合積石運車船運搬ノ終至合積川船使用
- 1 石材ノ平均運搬距離ハ左ノ如ク
 - 採石場ヨリ河岸迄 50 間、船路(上リ) 1,863 間、陸揚場ヨリ使用地迄 128 間
 - 採石場ヨリ直チニ陸路運搬セシモノ 原石 36,102 個 捨石 200 坪 小割石 350 坪アリ此ノ平均運搬距離 397 間

其二 飯塚伊田宮田採石工事

工 事 名	坪			石割石工 火藥代			石材平均			工 費			
	割石	捨石	小割石	頭	數	運搬距離	除土費	石割費	割石加工費	運搬費	雜 費	計	
飯 塚 採 石	290,933	214,145	389,200	894,275	2,406.00	277,330	892	1,690,030	3,214,005	490,955	3,398,520	735,060	9,528,570
			割石一坪當リ		2.69	.310		1,890	3,594	1,698	3,800	.822	11,794
伊 田 採 石	720,685	80,47	801,155	4,765.00	1,004,310	1,402	742,500	4,980,495	2,630,385	4,981,070	1,163,710	14,448,160	
			割石一坪當リ		5.9	1.254	.927	6,217	3,650	6,155	1,453	18,401	
宮 田 採 石	332,08	292,10	385,52	1,009,70	2,898.00	259,383	2,928	1,950,010	2,763,434	957,459	6,335,710	1,429,000	12,735,613
			割石一坪當リ		2.86	.257	1	1,283	2,737	2,883	6,275	1,415	14,518

摘 要 1 割石及ヒ捨石ハ個ヲ以テ整理シ小割石ハ坪ヲ以テ整理シタルモ本表ニハ同一單位トナス爲ニ 2 0 個ヲ以テ一坪ニ換算セリ

割石ハ石直用トシテ相當加工ヲ要シタル爲他ノ石材ニ比シ割石加工費ヲ除分ニ要セリ故ニ割石一坪當リノ工費ヨリ割石加工費ヲ除去スル時ハ捨石、小割石ノ一坪當リ工費ヲ得ヘシ

- 1 本表工費ニハ各附品其他無代價使用物品見積價格ヲ含ム
- 1 雜費中ニハ採石權補償及土地使用料ヲ含ム
- 1 表土除却坪數ハ飯塚 650.48 伊田 603.63 宮田 624.0 ナリ
- 1 本表ノ數量ハ大正五年六年度ノ二箇年間ノモノナリ

主要機械船舶修理費土坪對照表

論 報	名 稱	組立費 円	解體費 円	修理費 円	土 坪 坪	一坪當修理費 円	摘 要
遠賀川改修工事概要	第一號 掘鑿機	534,460		5,778,867	153,426.05	.0376	1 修理費ハ屋位以下
	第二號 ”	523,217		7,449,263	198,090.45	.0376	ノ金額アルモノハ
	第三號 ”	648,695		7,697,882	212,136.10	.0362	切捨テ、屋位ニ止
	第二號 機關車	454,277		6,196,022	173,351.79	.0357	ム
	第三號 ”	446,504		9,500,461	210,625.10	.0451	1 組立及解體ノ費用
	第四號 ”	393,470		6,151,616	159,970.86	.0384	ニシテ他川ノ工事
	第五號 ”	555,686		3,160,095	99,905.55	.0816	へ移用又ハ保管轉
	第一三一號 ”			2,595,920	79,141.75	.0328	換等ノ場合ニ於ケ
	燒付號 ”	300,890		6,902,592	61,516.96	.1122	ルモノハ之ヲ計上
	大井川號 ”	312,101		6,156,456	52,629.18	.1169	セス
	第二浚渫船	12,027,357	1,973,910	25,424,551	207,417.61	.1225	1 掘鑿一坪當リハ第
	第二長柄丸			14,974,569	207,417.61	.0721	二浚渫船第二長柄
	底開土運船	11,491,945	2,178,708	8,719,959	207,417.61	.0420	丸及底開土運船ニ
	五合積側開土運車	8,555,833		62,663,180	722,995.45	.0866	係ハルモノヲ除キ
	一合積土砂運搬車	386,363		23,914,569	114,146.14	.2361	タル一切ノ掘鑿岩
	八勺積土砂運搬車			3,044,100			切等ノ工費ヲ其總
	どこーびーる			86,624,465	1,225,332.585	.0707	土坪ニテ除シタル
	三十磅軌條			3,124,152	719,329.20	.0043	モノ浚渫一坪當リ
	十八磅軌條			549,451	98,378.06	.0055	ハ上記ノ三船ニ係
	鐵道布設道具			1,974,959	837,141.59	.0023	ハル工費ヲ浚渫土
移搬機及唧筒			1,616,283	171,077.70	.0094	坪ニテ除シタルモ	
はんどぼんぶ			862,216	837,141.59	.0010	ノナリ共ニ製作及	
すこっぶ			1,484,000	2,308,204.185	.0006	組立解體ノ費用ヲ	
雜 器 具			5,151,532			含マス	
生 產 器 具			1,993,983				
舟 船 附 屬 品			285,955				
計	36,680,799	4,152,618	309,067,198			{ 掘鑿 一坪當リ .1125 浚渫 一坪當リ .2368	
製 作	生産材料		48,596,003				
	生産器械		2,254,701				
	土工器具		7,408,605				
計			58,259,309				

四三

(完)

遠賀川修改平面圖

